

平成 27 年度第 3 回 八戸市南郷新規作物研究会議 議事録

日 時 平成 28 年 1 月 25 日 (月) 13:30~14:20
場 所 南郷事務所 2 階 大会議室
出席委員 狛守 弥千代委員、春日 勝委員、丹羽 浩正委員、根岸 文隆委員、
白幡 三津夫委員、松田 浩二委員

八 戸 市 山本農林水産部長、上村農林水産部次長、大久保農業経営振興センター所
長、石丸経営支援 GL、高橋地域おこし協力隊員、丹波地域おこし協力隊員、
幸田

●司会

ご案内申し上げました時間でございます。

本日は、大変お忙しい中、ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

私は、本日の会議の進行を務めさせていただきます、八戸市農業経営振興センターの幸田と申します。よろしくお願いいたします。

本日の出席者につきましては、お手元の席図をもってご紹介に代えさせていただきますと存じますのでよろしくお願いいたします。それでは、初めに、丹羽会長からご挨拶をお願いいたします。

●会長

お疲れさまでございます。全国的にといいますか、地球的にといいますか、天候が不順でございます。ぶどうの生育の状況について、天候の不順が続くとどうなるのかなあ、と私専門ではないのですが、気になるようになって参りました。今日は 3 回目ということで、遅滞なく進めて参りたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

●事務局

ありがとうございました。

本会議の議長は、八戸市南郷新規作物研究会議規則 第 5 条の規定により、会長をお願いいたします。

●会長

はい、それでは、お手元にお配りしております次第に従い進行いたします。議事次第の 3 番、ワイン用ぶどうの枯死及び病害の状況についてでございます。事務局から説明をお願いいたします。

●事務局

はい。八戸市農林水産部農業経営振興センターの石丸でございます。資料 1 ワイン用ぶどうの枯死及び病害の状況についての内容につきましては私の方から説明させていただきます。失礼ながら、着座して説明させていただきます。それでは資料の 1 の 1 ページをご覧くださいと思います。平成 26 年の供試品種でございます、それぞれ園地ごとになってございますけれども、品種につきましては 10 品種計 1,250 本の植栽を行ってございます。2 ペー

ジをお開きいただきたいと思います。2 ページの上段の表、これは園地ごとの枯死率ですね。3 月あるいは 12 月、1 月に植えてどれぐらいの苗が死んだか、と統計を取ってございます。表 2 の方をご覧ください、園地別に見て、園地 A これは枯死率 30%ということで高い、ということでございまして、これを品種ごとに枯死率を見たものがその下になります。10 のマスカットベリーA、これは日本の品種なんですけれども、一般的にはこれ寒さに強い、といわれていた品種なんですけれども枯死率 9%と高い結果となっております。続いてリースリングが 7%の枯死率でございます。この枯死率ですが、今年だけ見ていくわけではないんですけれども、今後南郷地区でぶどうを増やしていく際にですね、品種選定の参考にしていきたいなと思っているものでございます。この園地 A の園地にマスカットベリーA が 50 本植栽されていて、15 本枯死してしまったことからマスカットベリーA の枯死率が高くなったということもありますので、今後この枯死率については推移を見て品種選定の参考にしていきたいと考えているところでございます。そんな中で表 3 のところですね、一般的に寒さに弱いと言われるピノノワールの枯死率が 0、またメルローが比較的寒さに強いといわれているんですけども枯死率が 0 という結果でございました。続いては 3 ページですね、こちらの方につきましては園地ごとの定植後の病害の状況が記載されてございます。表の 4 が園地ごとになってございまして、表の 5 の方が品種別になってございます。これですね、今回青森県の農業普及振興室の方と私共の方と打合せをして、一年目なので病害に関する管理は知らないでしょうと生産者の方に説明してしまったことからですね、べと病と褐斑病が大発生するといった結果になってございますので、この辺については我々の方でも反省して来年度以降しっかりと防除体系を組んでいただくようご説明をしたい、と考えてございます。県と市の方で、時期ごとに病虫害防除に関する講習会を生産者の方に差し上げていたところなんですけれども、我々が特段なにも言わなくても、もともとぶどうを作っていた方につきましては薬剤散布をしていた、ということもあって結果的に病害の発生がなかったところもあった、ということです。べと病につきましては一般的に展葉 5 枚~6 枚ぐらいの時期から防除をしていくことが重要と言われておりまして、その辺だけ気をつければそんなに蔓延することもないのかな、と。褐斑病につきましても開花期からの防除を徹底すれば、そんなそんな出るということもないのかな、という認識でございます。あくまでもまず 1 年目に防除体系をしっかり組めなかったということもありまして、この辺の数字につきましては参考まで、ということにさせていただきたいと思っております。4 ページですね、こちらが褐斑病の感染本数、発生率でございます。褐斑病はあまり出なかったですけどやはりべと病の方はかなりの品種で病害が発生した、というものでございます。参考までにですね、各園地の薬剤散布の履歴ですね、聞き取りして、どのようにかけたか、というものをまとめてございます。その殺菌剤、殺虫剤の適用も参考までにですね、裏表のもので資料として付けさせていただいております。続きましてですね、その参考資料としてワイン用ぶどうの作業実績というものでございまして、こちらが去年の 3 月から去年の 12 月まで、栽培を委託した生産者の皆様が行った作業の要点でございます。まず 3 月上旬から除雪、消雪作業、あと堆肥の施用、あと苗木の定植を大概の方はここでやってございます。作業上の要点として、定植前に土壌分析を実施して堆肥を施用してございます。4 月はわき芽取り、誘引を行ってございまして、結果

母枝のわき芽の除去、架線に誘引する芽が一本残るように、保険のために2芽ほど残す、という作業をやってございます。5月追肥、誘引、除草、生育状況を判断しながら尿素を施用して、畝間、株間の除草を実施、下部第一架線へ誘引、を随時行ってございます。6月は薬剤散布、誘引でして、各種病害虫対策として、薬剤散布を適宜実施してございます。この辺さきほど申し上げましたとおり、県と我々の方はいらんんじゃないか、というようなことを説明していたんですけども、生産者の方で心配してかけていた方はかけていたというものでございます。あとべと病、褐斑病については薬剤散布による予防は9月までとする、ということでございます。7月が誘引と摘花、これは定植初年度のため、全ての株について摘花を実施してございます。8月が除草と誘引で、畝間、株間の除草を実施しています。9月が誘引、薬剤散布、不要な芽を随時摘除しながら架線へ誘引を続けてございます。10月ですね、基肥の施用ということで、成木の施用量、NPKで12-10-10kg/10aですね。これは山形県の資料を見ると醸造用については6-5-5というものもありまして、この辺につきましても、今後検討したいと考えてございます。この3割程度を年間の施用量としまして基肥につきましてはさらにこの約7割としてございます。11月ですね、剪定、幹周り除草、樹体の被覆でして、登熟の具合によって登熟した部分から2節下の部分を先刈りし、10芽程度残るように剪定を行ってございます。また剪定後、凍害防止及び野ウサギ対策として樹体をウレタンシート等で覆ってございます。12月につきましては除雪と剪定枝の処理等となっております。資料1につきましては以上です。

●会長

はい。それではただいま事務局から説明のありました、ワイン用ぶどうの枯死及び病害の状況について、ご意見、ご質問等がございましたら、お願いいたします。

●委員

今資料を拝見させていただいて非常におもしろかったのが、醸造用品種の方が意外としっかり生育して生食用の方が少し、率としては高いという、園地のAと園地のKで同じマスカットベリーAを100%、植えられて、しかも病気もないという中でこれだけ率も違うというのも、要因として考えられることは。

●事務局

あまりまあ、管理なのかな、と。あと場所、地形的な影響もあるかもしれない、ということ。根岸さんなんかは、園地Aから園地のKまで、誰の園地なのかお分かりかと思うんですけど、あまりこう言うと・・・。

●委員

両方とも農薬まいてないし、品種も同じですし。

●事務局

場所が違うので、地形的なものもあるのかなと。

●委員

他にになにか、端的に考えられることってありますか。

●事務局

地形的に風の強さだったり・・・。去年の冬は暖冬だったんで、考えられることはちょっと・・・。

管理面のこと・・・難しいです。

●委員

乾燥がかなり影響したかもしれない。去年は春先かなり暖かい状態で来ましたから、それで、場所によって影響があったかもしれない。

●事務局

一番下の園地が国道沿い、どっちかって言うそうですね。一番上が中野の方になるんで、なにかしらその辺もあったかも知れないですね。

●委員

品種も結構不思議ですね。逆、予想してたのと間逆ですね。

●事務局

間逆ですね。

●委員

ピノなんてすぐやられちゃうと思ってたんですが、枯死率からすると低い。

●委員

昨年、小樽と一緒にいかせてもらって、開墾しているぶどうの予定地を見せてもらったら、非常に、こちらに比べるとやせこけたような土壌。で、また現地に行って、どんな土壌がいいのかと聞いたら、やはりどちらかという痩せた土壌でやっていると。土と土壌ということ言えば、野菜をやっている常々思うんだけど、肥沃過ぎて病気を誘発するという部分もあるので、どちらかといえば、小樽の土を見てきてこっちに戻ると、肥えてるのかな、と。たばこの廃作という面で考えている部分もあると思うんだけど、たばこの畑ってすごく肥えてるんですね。そこと病気の関係っていうのも、裏づけとしてちゃんと、土壌分析の結果とか、地力ですね。過去の、畑に堆肥などどのようなものを入れたのか、堆肥でいえば5年、10年と尾を引くので、そういうところを注意してみると、品種だけじゃない病気の要因が見えてくる、相関が見えてくるかもしれないので、小樽から帰ってきてから気になってはいたので。

●事務局

たしかにぶどうに適している土は、肥えていないことっていうこと、そういうことと言えば南郷の既存の畑については合っていない、という可能性もあるので、その辺については、注意深く見ていこうと思っています。

●委員

その角度から調べてみるべきというか、余談っていうか、気になってたんで。

●事務局

実際に今から植える人については、肥料抜きして、何か、無肥料で作って、なんぼでも肥料抜いて作ってもらわないと・・・。

●委員

酪農家にデントコーン植えてもらおうとか、そういう考えでも。

●事務局

トマトのハウスでは、ほうれんそうとか小松菜植えて、肥料抜きさせて収穫して（やって

いる)。

●委員

品種と病気、地域、気候という観点から探っていくとやはり、人が作ってきた土壌も病気と関係が強いので、その角度からも調べてほしいですね。

●委員

それから、成ってから、それこそあの、肥沃なところに植えると、暴れるっていうんですか、好き勝手に根が広がって、要は体ばかり作って行って、果実の、実を結ぶほうに行かないということもあるみたいを書いてあった本もあるんです。私の方は植えはじめですけども、経過を見ていったときに、いざものがなったときに、果たしてどういった形になるものなのかな、っていうのは、実際にその期間経てみないと分からないな、と。全て肥料やって、生育良くして、木が太くなって、とそれが結果的にはいいことではないかもしれない。同じことかもしれないけども。

●事務局

その辺も、県の普及振興室と打合せをして、栽培の仕方ですね、我々も勉強しながら情報提供させていただければと思います。

●委員

あと病気の関係なんですけれども、まあべと病について、多少は出るんだろうなあと、でも放っておいても大丈夫だろうなという思いもあったんですけども、実際のところはかなりいられました。その、なにも手を加えないと病気も止まらないんだなと。前にあの、木村さん講師に呼んで、無農薬って話もあったんですけども、あれ？って。ほんとに可能なのかなっていう。実際的にたった一年だけで、なにも手を加えないと悲惨な状態になるということがよく分かりました。ただべと病については、出た段階でもう終わりだと。出る前に、発生する時期が大体もう決まってるから、気温がそれに達しちゃうともう出るというのがあって、それから逆算して、3週間くらい前にもう防除しておく、というふうでないとダメだっていう書き物がありますけども。そういうふうな対応をしていかないとダメなんだろうなと、結果的にべと病が発生したっていう報告がありましたんで、今年は指導の方やって、発生しないような形になればいいな、と思います。

●事務局

承知しました。

●委員

このべと病が、100（合計本数）から 100（病害本数）ってなってるんだけど、状態は、いいのか。これでは。

●事務局

ダメです。本来こんなに出すべきじゃないです。無農薬で栽培してるわけじゃないんですね。これは本当に我々が反省しなければならないし、生産者の皆さんに、いいです、今年はいらないです、っていうふうにしちゃべってしまったんで、その結果がこれですんで、反省していきたいと思います。

●委員

これ自体はなんぼか、立ち直る。

●事務局

これ自体はもう、葉っぱもう全然ないですから。来年度からは徹底的に防除していきますけども。

●委員

これで枯れてしまったとかそういうのはない。

●事務局

それは全然ないです。

●委員

まだ立ち直る要素はあると。

●事務局

まあ立ち直る、大丈夫です。

●事務局

菌が残ったりしてるから、出る前にかければ。片付けて、防除していけば。

●委員

べと病になったの、取ってしまうの？

●事務局

葉っぱはもう全然ないですよ。葉っぱは今もう全然ない状態で、出たときはそのまま。ただ次年度からは予防しますんで、注意したいと思います。

●会長

他にありますか。

●委員

これ40本はもう、ダメっていう結果で、毎年このぶつつくらいずつ出て行くと考えて。根付けば大丈夫なのかな。

●事務局

そうではないと考えておりますけども・根付けば大丈夫だと思いますけどね。

●委員

枯死したぶどうの補填の関係なんだけど、技術があれば簡単に増やせるの。というのは、台木が、接木しないとアウトだと。

●事務局

ダメですね。

●委員

接木する台木がどこで売ってるかというのが問題になって、接木することは聞けば簡単にできるんだけど、台木が、切ってしまうと持ってないわけですよ。だから、そのままだと病気になってしまう、ということなんだけど、台木のことをそこからどう増やしていけば、間違いなく元に戻して、ということが可能なのかなっていう。

●事務局

聞くそうですね、素人がやった場合に生存率っていうのが高くないっていう話を聞いたことがあるんですよ。やれなくはないと思うんですけども。

●委員

それこそあの、台木をどんどん増やせるんだと、生産者の方がそこにまた接木して、同じ品種で増やして行って、みたいなことができないのかなと。

●事務局

台木については確認します。で、その後の接木と生存率ですよ。あの生存率2割3割だと生産者の方そんな暇はないでしょうし。それでもやれるか、買ったほうが安かったりすることもあると思うんですね、その辺はちょっと確認して、情報提供差し上げたいと思います。

●会長

他にありますでしょうか。

●会長

はい、次に移りたいと思います。続きまして、議事次第の4番、平成28年度のワイン用ぶどうの生育調査についてでございます。事務局から説明をお願いいたします。

●事務局

はい、続きましてですね、資料の2をごらんいただきたいと存じます。資料2は平成28年度のワイン用ぶどうの生育調査についての概要が記載してございます。1ですね、平成26年度供試品種の生育調査につきまして、(1)から(4)の予定としてございます。まず生育状況調査としまして、項目案ですね。展葉枚数、これはあの、開いた葉っぱの枚数ですね。あと新梢長又は節間長について調査する予定でございます。(2)として生育ステージの記録ということで、発芽、展葉、開花、着色ですね。来年度初の収穫も考えておりますので、着色日も調査するよう考えてございます。あとは今年度と同様に枯死率、発生病虫害、及びその発生率ですね、これも調査したいと考えてございます。ぶどうの実がなったものにつきましては房の重さと粒の重さ、あと糖度、酸度の調査もしたいと考えてございます。で、平成27年度供試予定品種ということで、以下の品種につきましては3月に定植予定でございまして、シャルドネ、メルローにつきましては昨年度に植えたものと、品種としては同じでございます。次にブラッククィーン、ヤマソービニオン、これは新たに植えるものでございます。で、リースリングは昨年度と同様ですね、ツバイゲルトレーベは本年度新たに植えるもの、ピノワールは昨年度と同様で、ミュラートウルガウは新たに植えるものです。2ページご覧いただきまして、ピノーブラン、これも新しく植えるものでございます。その下ネッピオーロ、トレッビアーノ、バルベーラこれはイタリアの品種ですけれども、これも新たに植えるもので合計950、新たな品種を8品種定植する予定でございます。で、昨年度と今年度で品種の構成の大きな違いというのは、昨年度は青森県及びその近辺で生産の実績のあったものを定植してございます。今年度これから植えるものにつきましては実績がないものも半分以上含まれてございますので、より枯死だったり病害の発生率が上がる可能性もあるというふうに我々としては認識しているものでございます。(2)生育状況調査、これは平成27

年度定植品種についてという形で、展葉枚数、新梢長又は節間長、生育ステージの記録としては発芽日、展葉日、開花日、着色日、(4) 枯死及び病害虫被害状況については枯死率ですね、あと発生病害虫名及び発生率について調査する予定でございます。資料 2 につきましては以上です。

●会長

はい。ただいま事務局から説明のありました、平成 28 年度のワイン用ぶどうの生育状況について、ご意見、ご質問等がございましたら、お願いいたします。

●委員

今回配付される品種については、今までやられた農家さんのところとは全く別のところで実施される予定なんですか。

●事務局

いえ 1 件は同じですね。残り 2 件は別のところで。

●委員

じゃあ、新しく植える方については今年のうちに指導っていうんですか、して。

●事務局

そうですね、はい。

●委員

あの、植え方の関係で、昨年それこそ視察に行ったわけなんだけども、これから去年植えた人たちも、生育ステージの環境をまず知らない、それこそ参考になったのが、60センチくらいに棚を作って、60、90、まあ 30センチくらいずつにまあ支柱をはさんで 2 本線を引っ張っていた。で、そこの間に伸びたら入れる。1 本の線に巻き付いて上に上がっていくイメージあるんだけど、実際にあっちの人たちは線を 2 本入れてその間に入れて、そうすると自分で上に伸びていく。で、そのやり方っていうのは今の生産者の方分らないんですよ。それこそ今年になって枝が上に上がっていったときに初めて、あ、やり方を変えなくちゃならないんだなということになるんじゃないのかなと。今年植える方は最初から、そういうふうなやり方にしたほうがいいのかという指導をしたほうがいいのかと。

●事務局

そうですね。支柱については北海道のやり方をお知らせしたいなど。

●委員

実際的に、あとで二度手間をかけないで、収穫するときにはこうなるんだ、というイメージを植えつけた上での、指導をした方が、生産者も助かるんじゃないかと。今 26 年度に植えつけた方についても、1 本だけでやってるから、線の脇に挟みこめるようになっていない。おそらく今年、立ち上がりやれる人は、これどうしようと、もう一本引っ張らないといけない。そういうことがおそらく起きてくると思うから、事前にそれこそ、余市に行って初めて分かったっていう。

●事務局

そうですね。誘引の仕方は山梨だとか長野だとか園地園地によって様々なので、余市のやり方もお知らせしますし、他にもっといいやり方がないかというのも含めて検討してですね、

お知らせしたいと思います。

●委員

まあある程度情報提供してくれた方が生産者は助かると思う。

●事務局

はい。承知しました。

●会長

他にありましたでしょうか。

●委員

今の場所で聞いたほうがいいのかその他で聞いたほうがいいのか分からないんだけど、26年と27年と2年作付して、生育調査を進めていって、この地域にはこの種類のぶどうが合うだろうという方向が出るだろうと思うんだけど、進行形の中で、これからどういうふうにして、今27年度ですけれども、28年度以降もずっと進行形で進んでいくのか。

●事務局

調査用の植栽については今年度で終わりです。あと品種はとくに増やす予定はないので。この品種の中から選定していく予定です。

●委員

品種選定の方向性については出ると。

●事務局

はい。

●委員

3年か、2年か。27年だと去年だもんな。

●事務局

18品種ですからこれ以上増やしてももう・・・。

●委員

まあ品種選定の目的は、この南郷地域に合う品種を選定して、その先に広がって行って、農業振興に役立つように、ぶどうが多く生産されて、ワインづくり、創出プロジェクトにつながっていくのがあるべき姿だと思うんですけども、2年間試験して、その先は、行政の方では、その先は。

●事務局

今内部ですとね、内容については鋭意検討を進めておりますとですね、然るべき時期にお知らせしたいと思います。

●委員

去年の3月に植えたのは、今年の秋、実が出るのかな。

●事務局

今年の秋ですよ。ええ、採れるのもあると思いますよ。

●委員

品種によって。

●委員

この生育調査って、行政さんがやるんですか。自分たちが。

●事務局

ええと、そこまだ詰めてないんですけども、行政でやる分と、地域おこし協力隊の2人もいるので、彼らに頼む、あとは生産者に頼むという部分があると思っていて、例えば発芽日なんかは毎日見てる人じゃないと分からない、生産者にお任せするしかないのかな、と。あと枚数数えたり、いつ行ってもやれるものは、行政でやる予定であります。

●委員

結構南郷広いので、差があると思うんですけど。

●事務局

そうですね。

●委員

あと、防除って、どういうもので（薬剤を）かけてるんですか。

●委員

私の方では、普通の動噴。

●委員

新しい人たちここまで考えてますかね、薬かけ結構大変なんですよ。

●事務局

そうですね・・・。

●委員

水はどうしているのか。水。

●委員

私の方は、水はそれこそ八戸平原のあれがあるから。

●委員

そうかそうか、あるんだもんな。

●委員

そういうのが結構お金かかるんで、知らない人大丈夫かなと。

●事務局

今年についてはですね、薬剤散布の話はしたいなと思ってます。きちんとローテ組んで、予防予防でやってくださいって、説明会はする予定です。

●委員

薬剤散布の前に、適用知りません。例えば違う、ねぎのべと（病）と、ぶどうのべと（病）と、ものによって出方が違う。

●事務局

当然その辺は、情報提供します。倍率とですね。

●委員

それから、ぶどうの適用にどんなのあるかっていうことを分かった上で対応しないと。葉を見たときにこれって何と、わからない状態だと対応できないと思うから。

●事務局

そこはですね、所内でも打合せをしていて早めに、説明会をしたいと、思ってます。

●委員

結構適用は新しくなってきましたからね。本当に大変だと思います。

●委員

そのところ最初に取り組んだ人たちは、分からない状態に取り組んでるんで、べと病って何って、葉っぱの病気何っていう状態に取り組んでるんで。やっぱりそのところから入っていくことは間違いないかもしれないです。

●事務局

りんごにかけてる薬をぶどうにはかけられない。倍率もあるし。

●委員

それをやるとひっかかるから、りんごはりんご、ぶどうはぶどうで、あるんですけども、なってるんですけども売れないからそのままあるんですよ。そこらへんが難しい。前なら良かったんですけども、今はちょっと大変になったんで、できないなっていうのがあって。

●事務局

そうですね、意識をしっかり、履歴もやっていかないと、と思っているところですけども。その辺は早めに検討会をしたいと思っているところでございます。

●委員

農薬に関するそういうところには非常に厳しくなってるから、隣だからってかければ、残留農薬の関係は100パーセントに近いぐらいの精度でもう分かるということですから。甘い考え方ではダメですよっていう、JAさんの講習会で。

●事務局

今年度は実がならなかったからいいですけど来年度からは絶対ダメですよ。

●委員

それこそ0.01ppmとか、指定がない場合は縛られるんですけども、25mプールに大きじ2杯の塩入れると0.01だと。それだけ厳しい状態で、農薬は管理されているんだと。

●委員

できれば生食用でもあの、南部町とかでも、視察とかできれば生産者の方は助かると思いますけど。直の声を聞いて、薬のかけ方も、実際には病害はどのようにして出るんだよっていうことも、そういうふうに栽培する人から聞けば、参考になると思いますけれども。おそらくやっている人たちは、時間を合わせて参加すると思いますけれども。

●事務局

近隣でできるかどうかも含めて、検討させていただきたいと思います。

●会長

他にありませんでしょうか。

●会長

あと、事務局のほうから説明が。

●事務局

はい。事務局から最後になりますけれども、地域おこし協力隊っていうのは、南郷地区で公募してございまして、これは総務省の制度でして、首都圏等から地域おこしに関わる人材をまあ地方に呼んできてですね、地域おこしをしていただいて、最終的には定住していただくという目的がございまして、それでですね八戸市の方でも公募していて、まずですね、高橋くんです。昨年の9月に委嘱を行ってございまして、南郷にもう住んで、様々な、狛守さんのところで研修をしていたんですけども、これから研修期間も徐々に終わって、来年度以降地域おこしのお手伝いをさせていただく予定でございまして。あとですね、1月、今月から、丹波敏子さんを委嘱して、埼玉県三郷市の出身で、元々丹波敏子さんについては八戸市の方で、Uターンになりますけれども、1月から南郷に住んで、今ですね、今月一杯は農業経営振興センターで研修して、来月からはグリーンプラザなんごうさんで、春日社長のところで、研修をさせていただくという予定でございまして。じゃああの、高橋くんから順にあいさつをお願いします。

●事務局

9月1日から、地域おこし協力隊として就任いたしました、高橋駿です。元々地域おこし関連のことに興味があって、応募いたしました。ワインやぶどうに関してはまだ、知識は少なく、今日の会議でも分からない語句やピンと来ない語句がありましたが、今のうちに土台を作って、基礎を固めたうえで、皆様からも知識を吸収し、来年度以降、しっかりした形で、なにか貢献できればと考えております。どうぞよろしく願いいたします。

●事務局

今月から地域おこし協力隊に入りました丹波と申します。私は小売業の出身で、今回農産物の生産から携われるっていうのが、本当にあの、以前は売るだけでしたんで、今回は生産の現場に携われるっていうのがすごく楽しくて、1ヶ月間過ごしてきました。一生懸命勉強して、少しでも貢献できるように頑張っていきますので、よろしく願いいたします。

●事務局

はい。事務局からは以上でございまして。

●会長

はい、協力隊員の方々にも加わっていただいて、来年度、頑張りたいと思います。その他、なにかありませんでしょうか。

●委員

はい。ええとですね、昨年の夏ですか、先ほどもお話ししたけども小樽のほうに視察に行かせていただいたときに、現地で、除草をどのようにしてますか、ということで技術的な質問をしたら、こんなの使ってますということで、サンプルを、あそこは落さん、オチガビワイナリーさんからこんなの使ってるんだ、良かったらどうぞっていただいて参りました。それをですね、これからは規模拡大していったら、除草っていう技術は大変、必ずといっていいくらい問題になる技術ですので、参考までにとっと思ってうちで、まあ農協の取引業者ですけどね、うちで製造、販売、供給していく場合どれくらいになるかというのを叩き台として調べてみましたんで、まあざっくりとですけどもロットによって単価違うんですけども1

枚 200 円前後、少ない量だとこれくらいです。安いとこの半額までは行かないけど 60 パーセントくらいまではいけるかなと。参考までに、今後規模拡大、コスト計算や効率化を考える際に出番になるかもしれないので、事務局さんなり、データで今後控えてもらえればと。よろしくをお願いします。

●事務局

ありがとうございました。だんだんに必要になると思いますんで。

●会長

そうですね。

●会長

他にないですか。ないですね。はい、それでは以上を持ちまして研究会議を終了いたします。委員の皆様には、今後ともご協力を賜ることになりますが、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。どうもありがとうございました。